

令和7年度札幌市アイヌ施策年次報告書

札幌市

令和7年度アイヌ施策推進費の概要

札幌市においては、令和3年3月に策定した「第2次札幌市アイヌ施策推進計画」に基づき、基本理念である「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」を図るため、以下の施策目標を定め、アイヌ施策推進法の基本理念などを踏まえながら、関係機関等と連携を図り、各種のアイヌ施策を実施している。

施策目標1：アイヌ文化の保存・継承・振興

推進施策1：アイヌ文化の継承と人材育成

R7予算額5,038千円

1 アイヌ文化振興・保存・伝承活動への補助

アイヌ民族の若い世代の交流促進やアイヌの子弟に対する学習会などの学習支援やアイヌ文化に関する啓発活動などといった札幌アイヌ協会が実施する事業に対して補助を行った。

2 インカルシペ・アイヌ民族文化祭への補助

札幌アイヌ協会が開催するペウレアイヌの集い、アイヌ民族シンポジウム、ムックリ・トンコリ大会、アイヌミュージックコンサートに対して補助を行った。

3 アシリチェプノミ保存伝承事業補助（市民文化局文化部）

豊平川河川敷（南7条大橋上流左岸）において、アイヌ民族の伝統文化であるアシリチェプノミ（新しい鮭を迎える儀式）を復活することにより、広く市民に理解の輪を広げるとともに、その文化を保存・継承する取組を支援した。儀式では「アイヌ古式舞踊」が披露され、市民等のアイヌ伝統文化理解の貴重な場となっている。

開催日：令和7年9月13日（土） 参加者：250人

4 アイヌ文化継承関係の担い手育成に係る調査研究

アイヌ伝統文化の担い手を中長期的な観点で育成する仕組みづくりのため、先行事例である平取町における育成事業について現地調査・分析を実施し、本市の地域特性等を踏まえた今後の担い手育成事業モデルを検討した。

5 アイヌ高齢者（エカシ・フチ）の知識経験記録事業の実施

アイヌ高齢者（エカシ・フチ）の豊富な人生経験や記憶を残し継承するため、エカシ・フチから聞き取りを行い記録した。（聞き取り人数：3人）

推進施策2：アイヌ民族の伝統的な生活空間（イオル）の再生

R7予算額4,629千円

1 イオル再生事業の実施

アイヌ民族の伝統的な生活空間（イオル）の再生事業として、伝承活動に必要な植物や穀物などの自然素材の育成及び伝統文化の体験講座を実施している。

(1) 自然素材の育成

清田区内の市有地においてアワ、キビなどの自然素材の栽培及び育成管理を

行った。

(2) 体験講座の開催

以下の3講座を実施した。

ア 民具づくり：2回（参加者：24人）

1回目：樹皮を使ったポシェット

2回目：樹皮と紺反を使った巾着型トートバッグ

イ 伝統料理調理：4回（参加者：49人）

ウ 子ども遊び：2回（参加者：80人）

アイヌ文様等を絵柄とした、自然素材を活用した缶バッジ制作：ユニバーサルFesにて実施

2 アイヌ共用林野設定

南区内の国有林の一部を採取区域とするアイヌ共用林野契約を石狩森林管理署と締結することにより、樹木等の減少に伴い民有林での採取が困難となっている林産物について、アイヌ文化の振興等に活用するための採取が可能となっている。

施策目標2：アイヌ民族に関する理解の促進

推進施策1：アイヌ民族に関する啓発活動の推進

R7予算額29,419千円

1 アイヌ文化体験講座（市民向け）の実施

アイヌ文化交流センター、区民センター（中央、厚別、豊平、南、手稲）、北海道大学構内の各会場にて、刺しゅう、編み物、木彫り、エコツアー等の体験講座を実施した。

年度	開催回数	参加者
R 3	6回	68人
R 4	16回	219人
R 5	15回	226人
R 6	16回	211人
R 7	16回	204人



2 大型イベントと連携した情報発信

北海道マラソン2025の前日、前々日に開催されたEXPO会場（大通公園7丁目特設ステージ）にて、アイヌ文化ステージへ出演し、アイヌ民族の伝統的楽器の演奏や歌、踊り等を披露した。

3 アイヌアートモニュメントの制作・展示

アイヌ民族の伝統文化に対する理解の促進及び関心の喚起を目的として、アイヌ文様タペストリーをJRタワー1階西コンコース、札幌駅前通地下歩行空間、札幌市役所本庁舎1階ロビー、民間施設等に設置している。

令和7年度においては、公募した市民18名がアイヌ刺しゅう作家や木彫作家による指導のもと、刺しゅうと木彫を組み合わせたアート作品を共同制作し、アイヌ文化PRコーナーに設置した。

4 アイヌ人権啓発事業

アイヌ民族の歴史・文化等について理解と認識を深めるとともに、アイヌ民族に対する偏見や差別を解消するため、アイヌ民族の歴史・文化等に関するパネル展を下記のとおり2回実施した。

【1回目】

期 間：令和7年10月12日～令和7年10月13日（ユニバーサルFesにて実施）

場 所：札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）憩いの空間北1条東

内 容：アイヌ民族の歴史・文化等に関するパネル（公益財団法人アイヌ民族文化財団所有）を展示した。

【2回目】

期 間：令和8年3月23日～令和8年4月3日

場 所：札幌駅前通地下広場（チ・カ・ホ）10番出入口付近

内 容：アイヌ民族の歴史・文化等に関するパネル（公益財団法人アイヌ民族文化財団所有）を展示した。

5 アイヌ文化を発信する空間の管理運営

平成31年3月に供用を開始した「アイヌ文化を発信する空間（ミナパ）」を活用し、アイヌ文化への理解を深めるきっかけづくりや、リーフレット等の配架により、道内のアイヌ関連施設の情報発信を行っている。

6 埋蔵文化財センターにおける展示（市民文化局文化部）

埋蔵文化財センターにおいて、アイヌ文化に関する出土資料を展示している。

7 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク（環境局環境都市推進部）

アイヌ文化交流センターを「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の活動拠点の一つとして連携し、アイヌ民族の伝統文化や自然観の普及啓発を行っている。

令和7年度は、「さっぽろ生き物さがし2025」写真コンテストの審査を行った。

8 ユニバーサル推進事業（まちづくり政策局政策企画部）

年齢・性別・国籍・民族・障がいの有無等に関わらず、「誰もが互いにその個性や能力を認められ、多様性と包摂性が強みとなる社会」（共生社会）の実現に向けた関係施策・事業の推進に係る取組として、「ユニバーサルFes」や「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップなどを開催した。

9 サケ皮の常設展示（建設局みどりの推進部）

札幌市豊平川さけ科学館において、アイヌ民族の伝統的な「サケ皮」の使用方法について、本物のサケ皮及びサケ皮の靴を展示している。

アイヌ文化体験講座

R 7 (2025年度)							
	講座名		実施日		講師	受講者	会場
1	アイヌ文様刺しゅう	ミニタペストリー	6/7	土	1人	9人	交流セ
2		ミニタペストリー	8/3	日	2人	19人	交流セ
3		ミニタペストリー	9/7	日	2人	14人	交流セ
4		ミニタペストリー	9/21	日	2人	19人	交流セ
5		ミニタペストリー	10/12	日	2人	11人	交流セ
6		ミニタペストリー	12/14	日	2人	16人	南セ
7		ミニタペストリー	1/18	日	2人	19人	手セ
8		ミニタペストリー	3/8	日	1人	7人	厚セ
【刺繍 計】					14人	114人	
9	編み物	キーホルダー	11/2	日	1人	5人	交流セ
【編み物 計】					1人	5人	
10	木彫り	ミニお盆	6/21	土	1人	10人	交流セ
11		シェフボード	8/23	土	1人	10人	交流セ
12		ミニお盆	2/15	日	2人	16人	豊セ
【木彫り等 計】					4人	36人	
13	講義等	アイヌ文化を学ぶエコツアー	5/4	日	2人	20人	北大
14		アイヌ語	7/26	土	1人	7人	交流セ
15		アイヌ文化を学ぶエコツアー	10/4	土	1人	8人	北大
16		アイヌ民族の歴史と文化	1/7	水	1人	14人	中央セ
		1/14	水	中央セ			
【講義等 計】					5人	49人	
合計					24人	204人	

推進施策 2：アイヌ民族の歴史の尊重と教育施策の充実
R7予算額30,315千円

1 小中高校生団体体験プログラムの実施

アイヌ文化交流センターにおいて、小中高校生に伝統楽器の演奏、古式舞踊の披露、アイヌ伝統文化の体験、展示解説等を実施した。令和2年度から、送迎バスを無料で運行。

年度	参加校数	参加者
R 3	58校	4,204人
R 4	75校	5,600人
R 5	87校	6,452人
R 6	95校	7,372人
R 7	87校	6,298人



2 小中高校生団体出前体験プログラムの実施

アイヌ文化交流センターに来館しての体験プログラムの実施が困難な学校に出向いて、伝統楽器の演奏、古式舞踊の披露、アイヌ伝統文化の体験等を実施。

年度	参加校数	参加者
R 3	65校	4,835人
R 4	62校	4,518人
R 5	64校	4,808人
R 6	75校	5,604人
R 7	59校	4,625人

3 新任課長職への研修の実施

新任課長を対象として、アイヌ民族の歴史・伝統文化や人権に関する状況、国の動向等について研修を実施した。【市職員研修】

開催日：令和7年7月24日（木）14：15～15：55

開催場所：札幌市アイヌ文化交流センター

参加者：74名

4 新採用職員への研修の実施（総務局職員部）

新採用職員を対象として、アイヌ民族の歴史やアイヌ民族を取り巻く人権に関する研修を実施した（動画研修型）。【市職員研修】

開催日：令和7年4月3日（木）、10日（木）、11日（金）、10月14日（火）

開催場所：職員研修センター及び北海道自治労会館 参加者：470人

5 民族教育の充実（ムックリ体験等）

アイヌ民族の歴史・文化等への興味・関心を高めるために、伝統楽器「ムックリ（口琴）」の体験機会を提供した。

実績：ムックリ4,625個を出前体験プログラム等に参加した各学校に配布

6 職員教材ギャラリー（旧eラーニング）への教材提供

アイヌ民族に対する配慮をより適切に行っていくため、歴史・文化、近年の動

き、札幌市の取組などを市職員が自席で学習することができる職員教材ギャラリー（旧eラーニング）に教材を引き続き提供した。【市職員研修】

7 教育センター専門研修（教育委員会学校教育部）

受講を希望する教職員に対して、アイヌ民族の文化や民族教育に関わる研修を実施した。【市職員（教職員向け）研修】

- ・専門研修「アイヌ文化の基礎」

実施日：令和7年8月19日（火）

会 場：札幌市アイヌ文化交流センター（受講者：22名）

8 「人間尊重の教育」推進事業（教育委員会学校教育部）

「札幌市学校教育の重点」の基盤に位置付けている「人間尊重の教育」について、3つの視点（「教師自らの人間尊重の意識の向上」、「校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育に向けた取組の推進」、「子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手立ての構築」）に基づいた推進と充実を図った。

- (1) 研究推進校における実践研究の実施

「多様な性」、「アイヌ民族に関する学習」の2つのテーマに基づき、研究推進校における実践研究を進めた。また、研究推進校における取組を札幌市ホームページに掲載し、情報提供した。

- (2) 民族教育の充実に向けてアイヌ民族伝統楽器であるトンコリを貸出
令和7年度貸出実績 18校（360本）

小中高校生団体体験プログラム（参加した146校の、区ごとの内訳）

【体験プログラム+出前体験プログラム】

	中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	養護	計
全校数	16	30	28	20	13	22	15	19	20	16	3	202
参加校数	12	24	14	15	10	18	12	17	14	10	0	146
参加率	75.0%	80.0%	50.0%	75.0%	76.9%	81.8%	80.0%	89.5%	70.0%	62.5%	0.0%	72.3%

※義務教育学校（前期課程）を含む。

【体験プログラム】

	中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	養護	計
全校数	16	30	28	20	13	22	15	19	20	16	3	202
参加校数	4	9	8	7	7	14	4	16	10	8	0	87
参加率	25.0%	30.0%	28.6%	35.0%	53.8%	63.6%	26.7%	84.2%	50.0%	50.0%	0.0%	43.1%

【出前体験プログラム】

	中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	養護	計
全校数	16	30	28	20	13	22	15	19	20	16	3	202
参加校数	8	15	6	8	3	4	8	1	4	2	0	59
参加率	50.0%	50.0%	21.4%	40.0%	23.1%	18.2%	53.3%	5.3%	20.0%	12.5%	0.0%	29.2%

小中高校生団体体験プログラムの変遷

- 平成17年度 小中高校生団体体験プログラム開始
- 平成28年度 小中高校生団体体験プログラムのバス費用一部負担開始
小中高校生団体出前体験プログラム開始
- 令和2年度 小中高校生団体体験プログラムの無料送迎バス開始
ムックリ無料配布開始（体験プログラム+出前体験プログラム（抽選））
- 令和7年度 ムックリ無料配布（出前体験プログラム）

施策目標3：体験・交流の促進

**推進施策1：札幌市アイヌ文化交流センターの魅力創出
R7予算額116,224千円**

1 アイヌ文化交流センターの運営

アイヌ文化の保存・継承・振興や、市民理解の促進を図るため、アイヌ文化交流センターで各種事業を行った

- (1) アイヌ文化体験講座 【P4】
- (2) アイヌ文化交流センターイベント 【P9】
- (3) アイヌ民族古式舞踊（輪踊り） 【P9】
- (4) 小中高校生団体体験プログラム 【P5、7】
- (5) 小中高校生団体出前体験プログラム 【P5、7】



(6) アイヌ文化体験コーナー

アイヌ文化交流センターの来館者が気軽にアイヌ文化に触れることができるよう、30分程度の時間で刺しゅうや木彫りの制作体験、民族衣装の試着等を行うコーナーを運営した。(午前10時～12時、午後1時～4時)

年度	実施 日数	コーナー参加人数				
		刺しゅう	木彫り (コースター)	ストラップ	缶バッジ (注1)	民族衣装体験
R 4 (5/17～)	-	538人 (実施158日)	619人 (実施131日)	462人 (実施104日)	-	2,891人 (実施251日)
R 5	294日	677人	1,096人	1,988人	-	4,334人
R 6	296日	1,045人	1,365人	2,843人	(97人)	5,564人
R 7	296日	1,142人	1,295人	2,163人	666人	4,475人

(注1) R 6年度は「缶バッジ」ではなく「ペーパークラフト」制作体験

アイヌ文化体験コーナーの変遷

- 令和4年度 5月17日アイヌ文化体験コーナー開設、制作体験の定員は1回6名
日替わりで刺しゅう、木彫り、ストラップの制作体験、記念撮影コーナーを実施
(～1月)
毎日3つのメニューを実施(2月～)
- 令和5年度 7月～10月の土日は従事者を2名とし、制作体験の定員12名
- 令和6年度 ペーパークラフト制作体験を導入。
5月～11月の土日、夏休み/冬休み期間の従事者を2名とし、制作体験の定員12名
技術伝承を目的に、5～11月の平日のうち1日は見習従事者が従事
- 令和7年度 ペーパークラフトに替えて缶バッジ制作体験を導入

(7) Sapporo City Wi-Fiの運用

(8) 多言語による展示物説明

ポケットク (音声翻訳機6台、対象言語50以上) と展示ガイドアプリ (ポケット学芸員) の運用

(9) アイヌ食文化の発信

身近な「食」を通じてアイヌ文化への興味を喚起するため、レストコーナーに設置した2台 (R8. 3月から1台) のディスプレイで紹介動画を放映。

札幌市公式ホームページ (YouTubeチャンネル) で公開している「家庭でできるアイヌ料理」のレシピ (12本) のリーフレットを配布。

アイヌ文化交流センターの利用状況

年度	開館日数	来館者数	展示室観覧者数
R 3	201日	13,243人	9,339人
R 4	288日	28,458人	18,802人
R 5	314日	41,091人	24,185人
R 6	305日	38,907人	31,635人
R 7	313日	64,219人 (歴代最多)	27,940人

※休館日に体験プログラム参加校を受け入れた日も含む。

2 アイヌ文化交流センターの機能の充実

R8. 3月に老朽化が進んでいた交流ホールの音響機器の更新、展示室内の映像ガイドダンス（アイヌ昔ばなし、儀式紹介動画）機器の更新、展示室観覧料のキャッシュレスサービスを開始し、貸室使用者及び観覧者の利便性の向上を図った。

3 展示物の更新等

破損した展示物（ルウンペ（着物）、カパラミプ（着物）、カチョー（太鼓））の修繕及びウコカリカチュ（玩具）、サパンペ（冠）の新規製作を行った。

4 庭園のリニューアル

アイヌゆかりの植物について、来館者にわかりやすく説明できる庭園とするために、計画的に屋外庭園をリニューアルすることとしており、令和7年度は枯れ木や折れ木、高木などの危険木のほか密生していた樹木を伐採した。

推進施策2：アイヌ文化の体験・交流の機会創出

R7予算額3,157千円

1 アイヌ文化交流センターイベントの実施

アイヌミュージック、古式舞踊、切り絵制作体験、昔遊び、仕掛け弓の実演、アイヌ料理の試食等を実施した。

年度	開催回数	参加者
R 3	中止	-
R 4	15回	880人
R 5	15回	1,285人
R 6	15回	1,538人
R 7	20回	1,826人



※R 3年度は新型コロナウイルスの影響により中止

2 アイヌ民族古式舞踊（輪踊り）の実施

アイヌ文化交流センターにおいて、来館者等によるアイヌ民族の古式舞踊（輪踊り）の体験を実施した。

年度	開催回数	参加者
R 3	中止	-
R 4	中止	-
R 5	1回	47人
R 6	1回	25人
R 7	1回	27人



※R 3～R 4年度は新型コロナウイルスの影響により中止

施策目標 4 : 産業等の振興

推進施策 1 : アイヌ文化のブランド化の推進

R7予算額24,909千円

1 札幌市アイヌ文化PRコーナーの設置

令和6年12月に地下鉄南北線大通駅コンコースの旧大通情報ステーション跡地に札幌市アイヌ文化PRコーナーをサッポロファクトリーから移設し、アイヌ工芸品等常設販売店（PORSE（ポロセ））を設置した。

令和7年度には、ポロセをPRするためSNSを開設し、定期的に情報発信を行ったほか、開設1周年記念イベントとして、古式舞踏演舞や講演会の実施、クイズラリー等を実施した。

また、令和6年度に続き、ポロセに併設するアイヌ文化PRスペースでは、刺しゅうや木彫り等の体験ワークショップ、マキリやムックリの展示、写真撮影コーナーの設置、「家庭でできるアイヌ料理」リーフレットの配布などを行った。



推進施策 2 : アイヌ文化に関する観光プロモーションの推進

R7予算額9,527千円

1 ウポポイ・ピリカコタン（アイヌ文化交流センター）周遊バスツアーの実施

アイヌ民族に関する理解の促進に向け、アイヌ文化交流センター及びウポポイを巡るバスツアーを計29回実施した。（参加者：1,067人）

2 アイヌ文化に触れる市内バスツアーの実施

アイヌ民族の歴史や伝統文化について理解を深めるため、札幌市内のアイヌ関連施設（北大植物園とアイヌ文化交流センター）を巡るバスツアーを計2回実施した。（参加者：34人）

3 「シーニックバイウェイ北海道」との連携（南区市民部）

南区内の約40団体（連合町内会、商店街、大学、集客施設等）により構成され、南区の魅力アップと情報発信に取り組んでいる「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」のPR活動を支援している。

取組の一環として、アイヌ文化交流センターの情報が掲載されたパンフレット「感動・寄り道GUIDE」、「国道230号おでかけマップ」（札幌シーニックバイウェイが作成）やアイヌ文化交流センターを含む集客施設のイベント情報が掲載された「2026年度みなみくカレンダー」（南区が作成）を南区内の公共施設等にて配布した。

施策目標 5 : 生活関連施策の推進

推進施策 1 : 生活環境等の整備

R7 予算額 300,230 千円

1 住宅新築資金等の貸付

アイヌ民族の居住環境の整備・改善のため、住宅の新築・改修、宅地取得等の資金を準備した。(新規貸付なし)

2 アイヌ生活相談員・アイヌ教育相談員の配置 (市民文化局市民生活部・教育委員会学校教育部)

アイヌ生活相談員 2 名、教育相談員 1 名を配置し、各種相談に対応している。

(1) 生活相談員相談件数 : 1,259 件

(2) 教育相談員相談件数 : 528 件

3 アイヌ民族の児童・生徒への学習支援

アイヌ民族の児童・生徒に対し、夏休み期間に 5 日間の学習支援を行った。

(参加者 : 1 人)

4 共同利用館後継施設整備事業

老朽化が進んでいる共同利用館の後継施設確保について検討を進め、令和 6 年度に「札幌市共同利用館後継施設整備基本計画」を策定、令和 7 年度に基本設計を実施した。(現時点の設計案は別紙図面のとおり)

その他の事務費等

R7 予算額 19,836 千円

指標の達成状況

「第2次札幌市アイヌ施策推進計画」の実施状況を検証・評価し、施策のさらなる充実につなげるため、各施策目標に定めた指標は以下のとおりである。

令和6年度時点で、すでに目標値に達している指標も3項目あり、まだ目標値に達していない指標も当初値と比較して、目標値に近付いていることが確認できる。引き続き、各種事業を実施することにより、「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、各種の施策を推進していきたい。

施策目標	指標項目	当初値 (R2年度)	R6年度	R7年度	目標値 (R12年度)
1	「個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保存・継承・振興などに取り組んでいるアイヌ民族がいること」について知っている人の割合	63.5%	74.5%	72.1%	80.0%
	伝統文化の担い手育成の仕組みの構築	—	構築中 (講座等実施)	構築中 (調査等実施)	構築
2	アイヌ民族について知っている人の割合	89.1%	97.6%	97.8%	100.0%
3	札幌市アイヌ文化交流センターについて知っている人の割合	36.6%	54.3%	56.0%	60.0%
4	「アイヌ民族独自の伝統的な民芸品があること」について知っている人の割合	73.0%	83.6% (目標値超)	83.0% (目標値超)	80.0%
	アイヌ民芸品の常設的な販売場所の設置	—	設置 (目標達成)	設置 (目標達成)	設置
5	交流・継承の場の確保 (共同利用館後継施設の確保)	—	確保 (目標達成)	確保 (目標達成)	確保